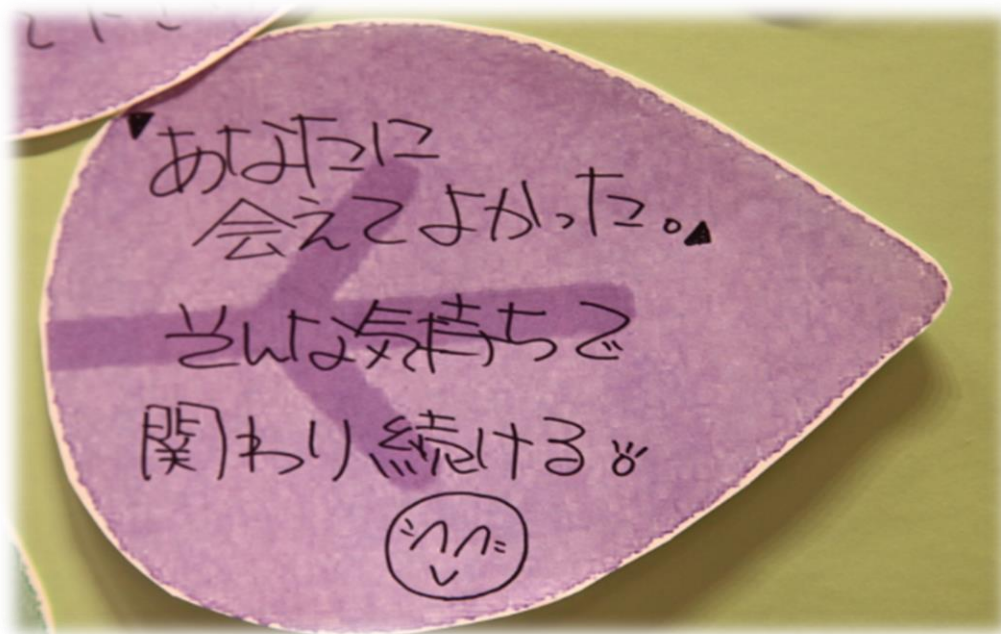


「想い」をつなぐ認知症地域支援の取組み



東広島市健康福祉部地域包括ケア推進課

認知症地域支援推進員 清水 祐佳・今井和美



東広島市について(位置、面積等)

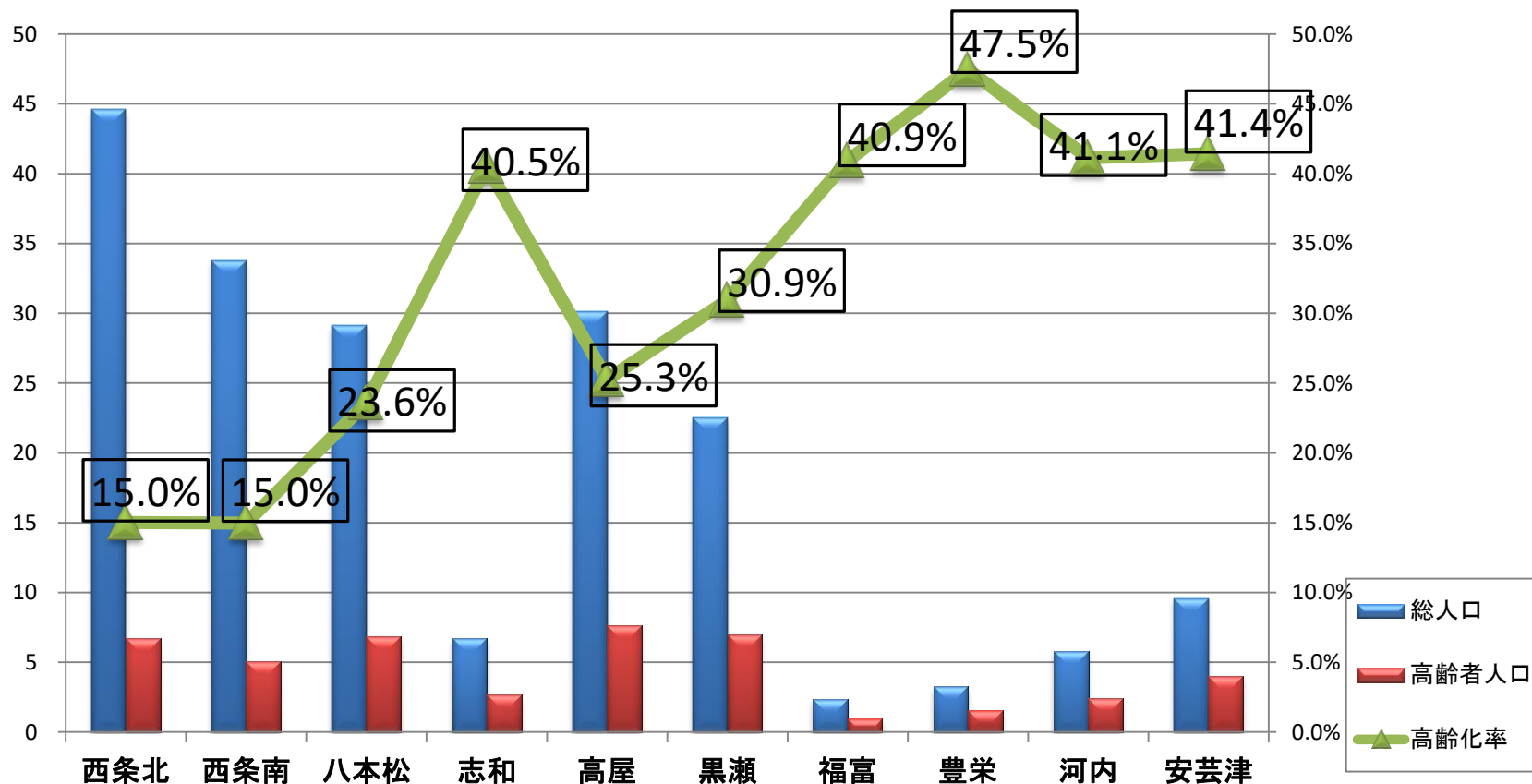


人 口	187,865人
65歳以上の人口	44,803人
高齢化率	23.8%
日常生活圏域	10圏域
包括数(直営)	4ヶ所
推進員数	5人(兼務)
面 積	635.16km ²
名産品	日本酒 西条柿、牡蠣 赤じゃがいも など

資料:住民基本台帳 平成31年1月末現在

- 県の中央部に位置し、県内各方面からのアクセスが良好。
- 市内に大学が4つある国際学術研究都市。
- 周囲を低い山々に囲まれた標高200～400mの盆地状の地形が大部分を占める。
南東部は、瀬戸内海に面している。

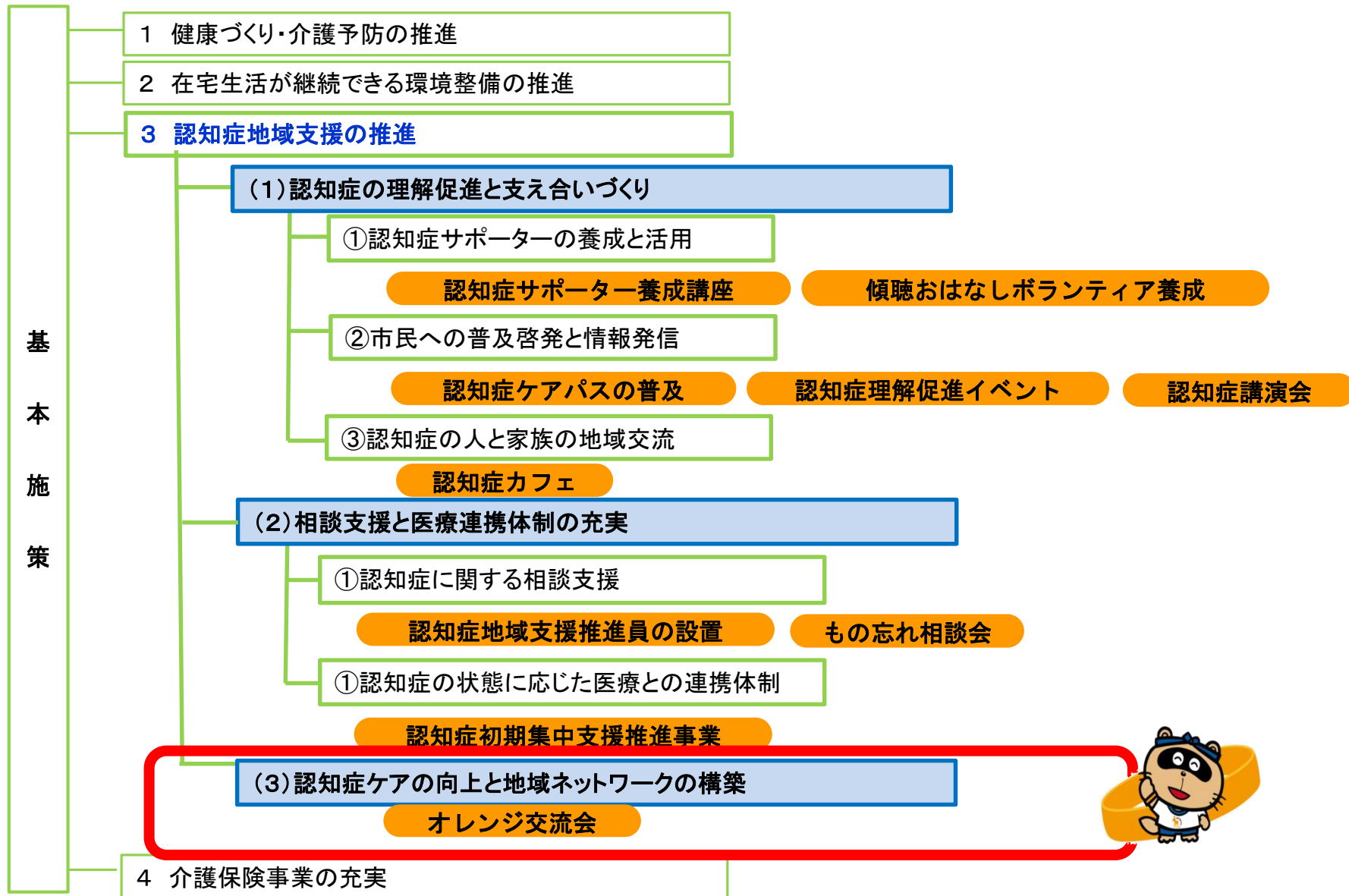
日常生活圏域別総人口・高齢者人口・高齢化率の比較



資料:住民基本台帳(平成31年1月末)

第8次東広島市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画（抜粋）

【基本目標】高齢者が要介護状態になっても、可能な限り、住み慣れた地域において在宅生活が継続できる基盤づくりを基本目標に掲げ、平成37年度（2025年度）までに**地域包括ケアシステムによる健康・医療・福祉が充実した地域とする**ことを目指します。また、地域共生社会の実現に向け、地域包括システムの深化・推進に取り組みます。



東広島市の認知症地域支援推進員 ～その1～



地域支援事業 認知症施策担当

具体的に何する人？どんなイメージ？

- ・ 認知症施策全体を把握している人
- ・ 国の動向や最新情報の発信役



TNCS = トータル推進員

具体的に何する人？どんなイメージ？

- ・ 『認知症地域支援推進員』という存在をPR
- ・ 認知症施策をつくるための市内全域コーディネートする人
- ・ 認知症施策全体を把握している人
- ・ 国の動向や最新情報の発信役
- ・ 各圏域での取組み支援・相談役



KNCS = 圏域推進員

具体的に何する人？どんなイメージ？

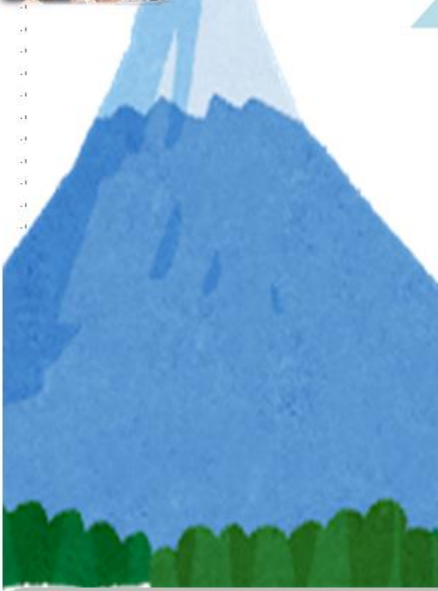
- ・ 『認知症地域支援推進員』という存在をPR
- ・ 認知症の人と地域（医療・介護を含めた）を結び付ける人
- ・ 圏域での認知症理解促進をすすめる人

東広島市の認知症地域支援推進員 ～その2～

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)		元気いきいき輝きプラン		東広島市 地域包括ケア推進課			
【基本的考え方】 認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。		【基本目標】 高齢者が要介護状態になっても、可能な限り、住み慣れた地域において在宅生活が継続できる基盤づくりを基本目標に掲げ、平成37年度(2025年度)までに地域包括ケアシステムによる健康・医療・福祉が充実した地域とすることを目指します。					
新オレンジプラン	その他	国の目標値 (H29.7.5目標更新)	市の活動計画	市の目標値	めざす姿 (長期目標)	認知症地域支援推進員の活動計画 (全包括)	H31以降計画
地域の実態把握 ①地域の実情を把握する ②各地域の課題を把握し、整理する					■国・県・市・地域の実態がわかる ⇒情報の見える化 ■認知症に関する課題を掘り起こし ことができる。		
1 認知症の人への理解を深めるための普及・啓発の推進		【認知症サポーターの人数】 H28年度末実績880万人⇒H32年度末1,200万人 【認知症サポーター養成講座について】 ⇒自治体が認知症サポーター養成講座受講者を把握する。 ⇒H30年度～養成講座において、認知症サポーターが地域でできる活動事例等を紹介する。	(1)①認知症サポーターの養成と活用 ・小・中学校、高校、大学を中心に、幅広い年代の認知症サポーターの養成 ・「傾聴・おはなしボランティア」の派遣活動の拡大 (1)②認知症理解促進イベント・認知症講演会 ・認知症理解促進イベント・講演会の開催や広報紙、SNS等の活用	【認知症サポーター養成講座 開催回数、養成者数】 H28: 54回 1,643人 H30: 60回 1,650人 H31: 65回 1,680人 H32: 70回 1,700人 【認知症講演会 参加者数】 H28: 150人 H30: 230人 H31: 230人 H32: 250人	■認知症当事者のポジティブな考え、認知症の持つマイナスなイメージを ■認知症に対する理解者が増え、良くなっても地域で安心して住み続ける。 ■認知症サポーター養成講座の受講後に地域で活動しやすくなる。		
2 認知症の容体に応じた適時・適切な医療・介護等の提供 ①本人主体の医療・介護等の徹底 ②発症予防の推進 ③早期診断・早期対応のための体制整備 ④行動・心症状や身体合併症等への適切な対応 ⑤認知症の人の生活を支える介護の提供 ⑥人生の最終段階を支える医療・介護等の連携 ⑦医療・介護等の有機的な連携の推進		【認知症初期集中支援チーム設置市町村数】 H30年度からすべての市町村で実施 【認知症地域支援推進員の人数】 H30年度からすべての市町村で実施 【かかりつけ医認知症対応力向上研修の受講者数(累計)】 H28年度末実績 5.3万人⇒H32年度末 7.5万人 【認知症サポート医養成研修の受講者数】 H28年度末実績 0.6万人⇒H32年度末 1万人 【専科医師認知症対応力向上研修の受講者数】 H32年度末 2.2万人 【薬剤師認知症対応力向上研修の受講者数】 H32年度末 4万人 【認知症疾患医療センターの数】 H28年度末実績 約500か所 【一般病院勤務の医療従事者に対する認知症対応力向上研修の受講者数】 H28年度末実績 9.3万人⇒H32年度末 22万人 【看護職員認知症対応力研修の受講者数】 H32年度末 22万人 【認知症介護指導者養成研修の受講者数(累計)】 H28年度末実績 2.2千人⇒H32年度末 2.8千人 【認知症介護実践リーダー研修の受講者数(累計)】 H28年度末実績 3.8万人⇒H32年度末 5万人 【認知症介護実践者研修の受講者数】 H28年度末実績 24.4万人⇒H32年度末 30万人 【認知症介護基礎研修の受講者数】 ⇒認知症介護に関わる可能性のあるすべての職員の受講を目指す。	(1)②認知症ケアパスの普及 (2)①認知症に関する相談支援 ・「認知症地域支援推進員」を複数配置(地域包括支援センター及び認知症疾患医療センターなど) ・かかりつけ医との連携 ・相談支援体制(もの忘れ相談会など)の充実 (2)②認知症状態に応じた医療との連携体制 ・「認知症初期集中支援チーム」の周知・普及	【認知症支援推進員 配置人数】 H28: 5人 H30: 6人 H31: 6人 H32: 7人 【認知症相談会 開催回数、相談者数】 H28: 5回 13人 H30: 7回 18人 H31: 8回 20人 H32: 10回 25人 【初期集中支援チームでの初回訪問件数】 H28: 13件 H30: 15件 H31: 17件 H32: 18件	■認知症に対する不安を抱える本人が、いつ、どこで、どのような医療やケアを受ければよいかわかるようになる。 ■医療・介護関係者等の間で情報共有し、サービスが切れ目なく提供される。 ■認知症にやさしいまちづくりの推進。 ■市民が身近なところで気軽に相談できる体制を構築する。		

【課題】認知症の理解格差を埋めるために

目指す姿
認知症に
希望と尊厳を持つまち





認知症の診断を受けて絶望・不安・隠したい...

【課題】認知症の理解格差を埋めるためには？

目指す姿
 認知症に、希望と尊厳を持つまち

※格差がある
 ～今、東広島市は何が目なのか？～

認知症の診断を受けて絶望・不安・愚かしい・・・

認知症地域支援体制を考える

【目的】

認知症の方が尊厳を持って地域で安心して暮らせる環境を整えていく。

【目標】

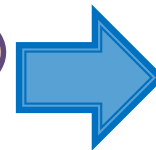
1. 地域の人々が認知症についての正しい知識を身につける。
2. 医療と介護、地域協働による総合的な支援体制を築く。

地域の認知症支援に携わる人に声をかけてみよう

集まって



一緒に考えて



動いてみよう

オレンジ交流会のはじまり

オレンジドクター・オレンジアドバイザー・キャラバンメイト交流会 (オレンジ交流会)



オレンジドクター
(サポート医・
もの忘れ相談医)



オレンジアドバイザー
(認知症介護指導者・
実践リーダー研修終了者)



キャラバン・メイト
(認知症サポーター養成講座の講師役)

＊さまざまな関係者が集うオレンジ交流会

＊そのメンバーが仲間として活動している有志の会

オレンジ交流会の活動から生まれ、今も続く事業

1. 相談窓口づくり
2. 社会資源マップの作成（認知症ケアパス）
3. 認知症サポーターの活用





1. 相談窓口づくり

●認知症介護アドバイザー意識調査から見てきた課題

- 相談できる場所
- つなげていく環境

●取組みの方向性

誰が・誰に

- 相談に出向けない人にも

どこで

- 人が集まりやすい場所

具体的な活動

- 地域に出向いた相談会
- 「安心」と「次につながる」

相談できる機会
を増やす

協働の場が
広がる
メリットも！



もの忘れ相談会の開催



2. 社会資源マップ(認知症ケアパスの作成)



「認め合って、知って、共に生きる」
というサブタイトルも、
メンバーが意見を出し合い、
考えました。

挿絵に使われているのは、
家族の会の方の絵です。

どの絵も温かいぬくもりを感じます。

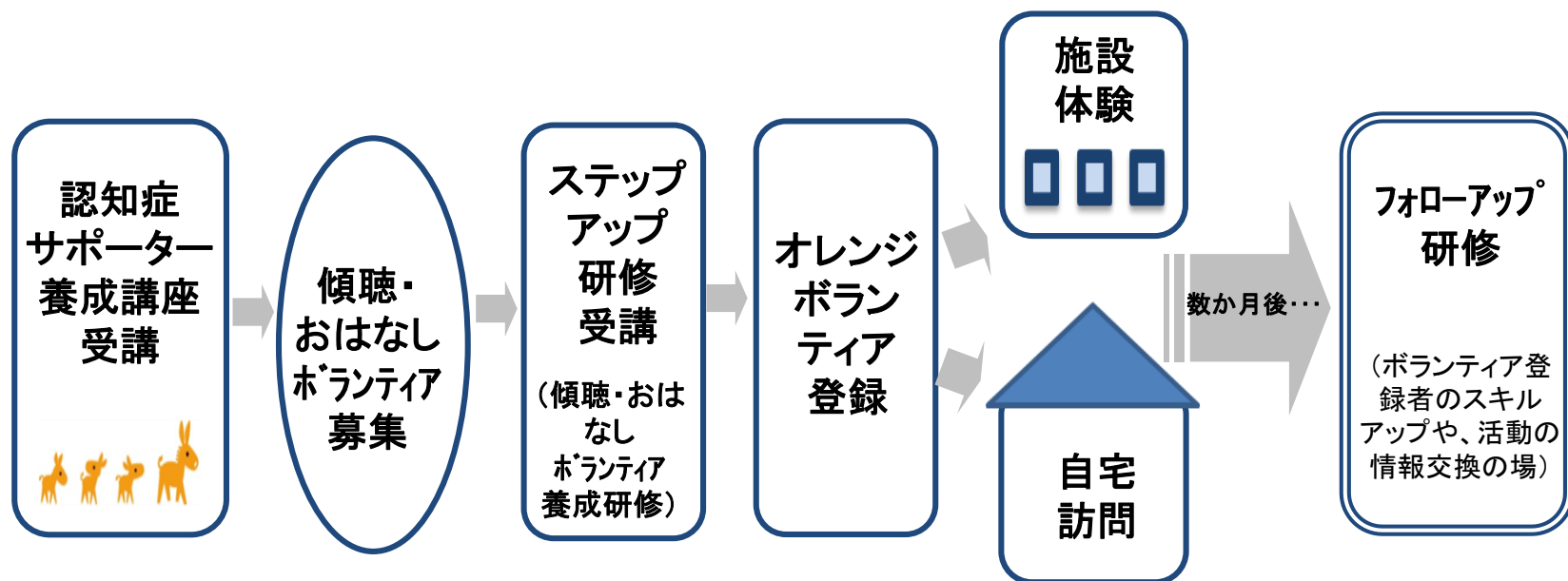


3. 認知症サポーター活用

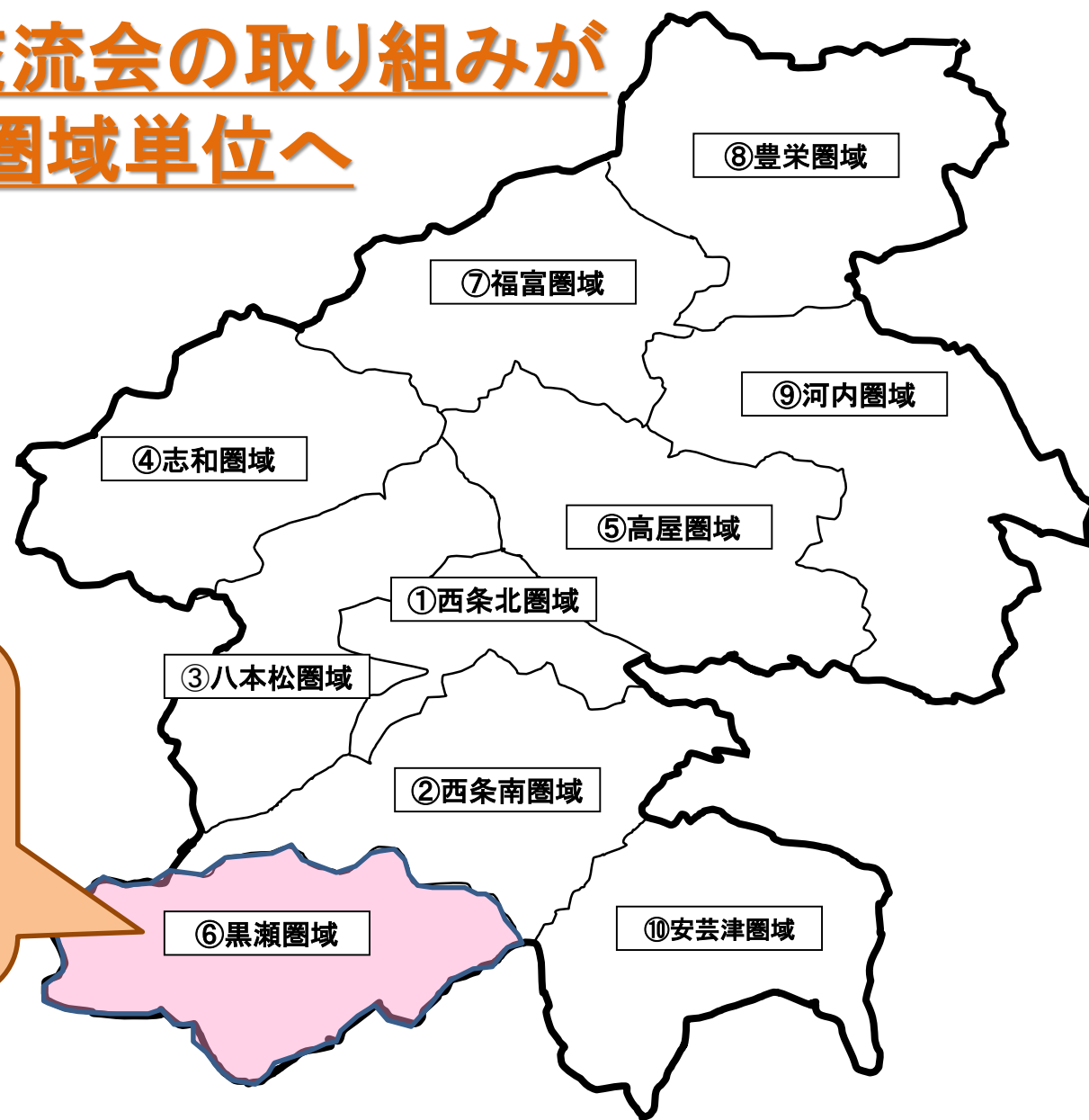
ボランティア活動につながる『認知症サポーターの活用』ができないか？

- 身近に、自分磨きをしたいと思っている人たちがいる
- この人たちに呼びかけ、ボランティアのしくみをつくっては
- 認知症サポーターも数を増やすだけではなく、その後の継続したフォローアップが必要

➡ **「傾聴・おはなしボランティア(オレンジボランティア)」の養成**



オレンジ交流会の取り組みが 日常生活圏域単位へ 広がる！



黒瀬圏域での
取り組みを
今日は
ご紹介します！

対応

はやく

アンダー100作戦
(詐欺防止)

口腔ケア

相談しやすい
システム作り

移動支援
(さくらバス)

介護負担軽減
(黒瀬家族会)

緊急体制
(防災マップ、
ふれあいバック)

サロンの充実
(介護予防、
男性向け)

個人情報

薬のお届け

外出支援
(送迎)

買い物
(移動販売)

認知症予防
(早期発見)
認知症予防
(理解促進)

検討

見守り活動

居場所作り
(空き家の活用)

ゆっくり

・・・2つの企画が動き出す・・・

企画タイトル 認知症になっても大丈夫よ **気づく・見守る・支える町づくり**

①計画時 (1.1)
②実施後の中間報告 ()

① 計画内容を設定する

現状分析

①対象地域の現状、数値的データ等、

- ・黒瀬町人口 23,189 人（高齢化率 28.9%、後期高齢化率 10.8%）
- ・地元の田園地帯と前期高齢者世帯（85歳以上）が密集した分譲住宅地がある。（昭和 40 年代に分譲住宅として販売され、近隣市町からの移住、高齢者
- ・サロン 48
- ・医療機関
- ・町内交通の便が課題となり、住民自治協議会運営のさくらバスが H28
- ・民生委員

取り組み(事業)内容〔予定〕

①計画内容、

- ・認知症サポーター養成講座実施のための場の提供（自治会等の団体、サロンや友人の集まり）・調整。
- ・団体に対して認知症サポーター養成講座を実施。

企画タイトル 認知症になっても大丈夫よ **気軽に相談できる場の提供**

①計画時
②実施後

① 計画内容を設定する

個別課題

- ・一人暮らし
- ・認知症の
- ・町内人口
- ・高齢者人口
- ・人も増える。
- ・自分が認知

現状分析

①対象地域の現状、数値的データ等、

- ・黒瀬町人口 23,189 人（高齢化率 28.9%、後期高齢化率 10.8%）
- ・地元の田園地帯と前期高齢者世帯（85歳以上）が密集した分譲住宅地がある。（昭和 40 年代に分譲住宅として販売され、近隣市町からの移住、高齢者のみの世帯が増えている）
- ・サロン 48 ヶ所（うち高齢者参加 43 ヶ所）、地区社協 8 ヶ所
- ・医療機関や介護施設等は隣市もあり充実している地域
- ・町内交通の便が課題となり、住民自治協議会運営のさくらバスが H28
- ・民生委員は 48 人、見守り協力員 103 人

取り組み(事業)内容〔予定〕

①計画

- ・もの忘れ相談会実施に向けて関係機関と
- ・在宅推進医・ケアマネジャー（認知症サポーター養成講座）等、包括的
- ・もの忘れ相談会実施。
- ・もの忘れ相談会の場で認知症サポーター養成講座を行う。

ネットワークの内容〔予定〕

メンバー

①予定しているメン

黒瀬オレンジ会のはじまり

生活支援
コーディネーター
大活躍！！

- ・ 定例会：1回／2ヶ月
- ・ 構成メンバー：

在宅医療推進医、民生委員児童委員会長、生活支援コーディネーター
オレンジアドバイザー、キャラバンメイト、黒瀬商工会青年部福祉部会
地域包括支援センター



黒瀬オレンジ会の取組み

I 普及・啓発

- ・全町民が認知症サポーターになる地域を目指す
- ・啓発ちらしの全戸配布

II 早期発見・早期治療

- ・軽度認知障害(MCI)の人を医療につなげていく

III 若年性認知症

- ・気軽に相談ができる場所をつくる

IV 介護者支援

- ・家族の認知症への理解をすすめる

V 高齢者にやさしい地域づくり

- ・認知症サポーターを全世代、全住民に！
- ・独居を支えるための地域づくりを考える
- ・広島国際大学の教授や学生による地域づくりへの参画



I 普及・啓発

★既存の資源から・・・

黒瀬町では、年2回、
社会福祉協議会から『社協だより』
という冊子が発行される。
その中に折り込みちらしを入れる
ことになる。

➡ 黒瀬オレンジ会の取組みを
全町民に周知しよう！
わたしたちの取組みの
ゴールを黒瀬町全住民と
共有できるように・・・

➡ 認知症カフェやもの忘れ
相談会の告知もできます。

認知症になっても安心して自分らしく住み続けられるまち・黒瀬町

正しく知ろう 認知症



発行元：黒瀬地域包括支援センター
〒739-2692 東広島市黒瀬町丸山1333番地
電話：0823-82-0203

認知症は、周囲の理解とサポートがカギ

認知症の患者数は高齢化とともに増え続け、2025年には、65歳以上の5人に1人が認知症になるといわれています。認知症は誰もがなる可能性があります。
家族が、友人が、認知症と診断されたとき、どのように関わり合っていけばいいのか。
まずは認知症を理解することから始めませんか。周囲の理解と正しい関わりがあれば、本人も家族も穏やかに暮らしていくことが可能になります。

新・認知症ガイドブックが できました!!

自分や家族が認知症の診断を受けた時、または、認知症かなと心配になった時、はじめに読んでいただきたい冊子です。

認知症当事者や家族の「声」や、認知症の経過と対応、各種サービスや相談機関の連絡先などが掲載されています。

冊子は、黒瀬支所の5番窓口にあります。



I 普及・啓発

★既存の資源から・・・

社会福祉協議会では、黒瀬町内の全小学校で、福祉体験授業を展開していました。そのメニューの中に、認知症サポーター養成講座の項目を追加！「と～ってもよい授業になりますよ～」とPR。



➡ 黒瀬オレンジ会メンバーと協働できる場の拡充。
目標に向かって一致団結！絆が強くなりました！
必ずグループワークを取り入れ、地域みなさんが先生に。
結果、地域の人は何回も受講する形になっていった・・・

- ➡ ●日頃、包括主催の研修に参加しない民生委員さんがやって来る！子どもの魅力ってすごい！
- 認知症の人へのやさしい対応方法について子どもに伝えるため、大人も勉強を始める。
 - 子どもにわかりやすく伝える技術は大人も感動する！

各学校での認知症サポーター養成講座



参観日：保護者と一緒に考える



「どんな声かけをする？」



「認知症の人を支えるにはどんな仕事がある？」



課題についての話し合いの場面

認知症講演会 企画！



**みんなの力が
結集！！**

認知症講演会
主催：東洋オレンジ会（東洋地域認知症支援者ネットワーク）



黒瀬オレンジ会の取り組み

I 普及・啓発

- ・全町民を認知症サポーターになる地域を目指す。
- ・啓発ちらしを全戸配布

II 早期発見・早期治療

- ・軽度認知障害(MCI)の人を医療につなげていきたい

III 若年性認知症

- ・気軽に相談ができる場所をつくる

IV 介護者支援

- ・家族の認知症への理解をすすめる

V 高齢者にやさしい地域づくり

- ・認知症サポーターを全世代、全住民に！
- ・独居を支えるための地域づくりを考える
- ・国際大学の教授や学生への地域づくりの参加

認知症高齢者等にやさしい地域づくりの推進



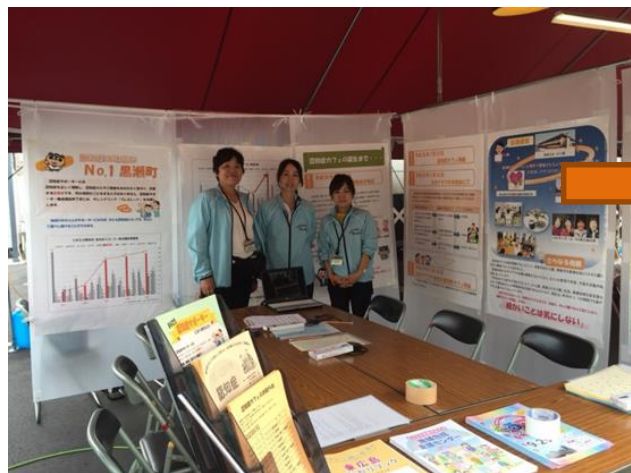
Ⅱ 早期発見・早期治療

★新しい取り組み・・・

これまで市中心部で開催してきた『もの忘れ相談会』を、黒瀬町で行うことになる。高齢者が集まる場所(スーパー等)の人たちと、どうつながればいいのか・・・悩む・・・



➡ ネットワーク会議参加者でもある商工会局長へ相談。趣旨を説明すると、局長自ら、その場で大型スーパー店長に交渉。すぐに実施場所が決まる！



- ➡
- 行政では働きかけにくい機関には、つながりからのアプローチができる。
 - 商工会イベントにもブースを出店し、黒瀬町での認知症の取り組みをPR！商工会の人ともつながる。

黒瀬オレンジ会の取り組み

I 普及・啓発

- ・全町民を認知症サポーターになる地域を目指す。
- ・啓発ちらしを全戸配布

II 早期発見・早期治療

- ・軽度認知障害(MCI)の人を医療につなげていきたい

III 若年性認知症

- ・気軽に相談ができる場所をつくる

IV 介護者支援

- ・家族の認知症への理解をすすめる

V 高齢者にやさしい地域づくり

- ・認知症サポーターを全世代、全住民に！
- ・独居を支えるための地域づくりを考える
- ・国際大学の教授や学生への地域づくりの参加

認知症高齢者等にやさしい地域づくりの推進

I 普及・啓発

II 医療・介護等

III 若年性認知症

IV 介護者支援

V 認知症など高齢者に
やさしい地域づくり

VI 研究開発

VII 認知症の人やご家族の視点の重視

Ⅳ 介護者支援～認知症カフェの取組み～

★既存の資源から発展・・・

ひとつの居宅介護支援事業所で実施していた家族会を認知症カフェに移行。
黒瀬町内の主任ケアマネの取組みとして、3つの居宅で協働運営することになる。



↑ 主任ケアマネ会議の様子





夜の認知症カフェ ☕ 開催!



2019年(令和元年)9月12日(木曜日) 地域(26)

呉・東広島 夜に集おう 認知症カフェ

黒瀬の住民ら企画

東広島市黒瀬町のケアマネジャーや商工会青年部、医師たちでつくる「黒瀬オレンジ会」が、昼間に催されることの多い、認知症の人や家族が集う「認知症カフェ」を、夜に開く取り組みを始めた。「食事と酒を囲んで気軽に語ろう」と企画。日中動く人や男性介護者たちの参加も促し、不安や愚痴を受け止め合う場にする。(鈴木直美)

男性介護者ら 食事囲み悩み語る

8月下旬に初めての集いが開かれた。会場は町内のお好み焼き店。認知症の人や家族、介護の専門家、地域の住民たち17人が顔をそろえた。

78歳の男性は、焼酎を片手に胸の内を語った。「今朝、初めて妻に手を上げてしまった」。6年間、認知症の妻(76)を一人で介護してきた。自身も1年前、前立腺がんの手術をした。体調は万全ではない。

シヨットステイの利用を勧められるが、妻は行きたがらない。「迎えの車が来ても住みながみついて離れんの。入れ歯もはめさせてくれん。どうしていいか分からんようになる」。泣きだしたその顔で、焼酎を飲み干した。

隣に座る参加者がささす、「イライラするし、つらいよね」と声を掛ける。「うちの母も同じよ」「ほんまに、よう頑張つてるよ」。互いに介護の体験や悩みに耳を傾け、すぐに共感の輪が広がった。

普段の認知症カフェは月1回、昼間に町内の居宅介護支援事業所3カ所で開催している。夜のカフェを提案したケアマネジャーの久保洋子さん(51)は「男性は弱音や本音を吐き出すのが苦手な人が多い。お酒を飲みながら語らい、ほっとしたり、参考になる情報を持ち帰ったりしてほしい」と話している。

今回は未定だが、定期的に町内の飲食店で開催する計画を立てる。市社会福祉協議会黒瀬支所 ☎0823(82)2026

呉支社 ☎0823(26)1500 FAX(26)4847
東広島総局 ☎0823(43)0000 FAX(43)0004
竹原支局 ☎084(62)2303 FAX(62)0007
江田島支局 ☎0833(41)0013 FAX(41)0008

令和元年9月12日 中国新聞にて掲載

V 高齢者にやさしい地域づくり～資源マップの作製～

★認知症の人やその家族が外出しやすい町になったらいいな・・・♪

⇒ 『高齢者お助けマップ』の作成へ。

商工会青年部福祉部会と生活支援コーディネーターが協働し、商工会活性化事業を活用し補助金をゲット！

マップ作成にあたって、「認知症にやさしいお店」をつくっていこう！

⇒まちの商業関係者にもオレンジリングを！



認知症サポーター
養成講座の様子



資源マップ打ち合わせ
の様子

完成 !!

サロンや100歳体操などが行われている場所

●下黒瀬地区

- ①上島山館
- ②桜ヶ丘1丁同済山館
- ③春日野1丁同済山館
- ④春日野2丁目同済山館
- ⑤東郷老人集会所
- ⑥田代山館
- ⑦切田上組自浄山館
- ⑧切田北組老人集会所
- ⑨ひまわり会老人集会所
- ⑩新元山館

●中黒瀬地区

- ⑪八段ヶ原町地自浄山館
- ⑫松風苑自浄山館
- ⑬鹿ハイツ自浄山館
- ⑭高一院自浄山館
- ⑮鶴屋レークランド自浄山館
- ⑯鶴屋緑ヶ原自浄山館
- ⑰松ヶ丘自浄山館
- ⑱国ヶ崎自浄山館
- ⑲切田山館
- ⑳ハイライつくせ自浄山館
- ㉑鶴原中央路地自浄山館
- ㉒鶴切町地内
- ㉓高麗池自浄山館
- ㉔(特)石崎事務所
- ㉕龍新山館

●板城西部地区

- ㉖サンバーハイブ自浄山館
- ㉗真野神社
- ㉘大幸山館
- ㉙寛田老人集会所
- ㉚上保田コミュニティ館
- ㉛市旗田コミュニティ館
- ㉜久保寺
- ㉝田津原神社
- ㉞乃美尾ふれあい館

●乃美尾地区

- ㉟竹富山館
- ㊱神岡山館
- ㊲御区山館
- ㊳南方山館
- ㊴黒瀬ハイブ自浄山館
- ㊵奥賀神社

●上黒瀬地区

- ㊶久保寺
- ㊷田津原神社
- ㊸乃美尾ふれあい館

黒瀬お助けリスト

ちょっと困ったその人に
一緒に来てもらったらひと安心!

店 食事やお助け
弁当・惣菜ほか日用品の配達
電話注文も可能、タイムサービスあり
セブンイレブン黒瀬駅前店 ☎0823-42-173
TEL0823-42-1030 ☎0823-42-1030

☆その他お助け

お家に着くこと
文庫車、クリーニング車、移動販売車、送付
☎0823-27-4167 ☎0823-27-4115

お家に着くこと
高齢者、身体障害者のための生活支援サービス
(南)はつね ☎0823-42-6866 ☎0823-42-7895

ペット事情
犬猫のドッグウォーカー、トリミング、寄託
大井町ドッグサロン ☎0823-42-0013
星のわんぱく ☎0823-42-4090 ☎0823-42-0013

不要品の処分・回収
バイク・家電・家具・不用品回収
カネコ ☎0823-42-4166 ☎0823-42-4166

墓地等の有効活用
墓石の購入、管理、撤去、移転など
(株)土曜 ☎0823-42-0370 ☎0823-42-0370

不動産・設備・運賃など
不動産、リフォーム、水道、電気、ガス
第一ビル ☎0823-81-0147 ☎0823-81-0148

パソコン修理・販売
個人・法人向けパソコン修理・販売
(株)リテック ☎0823-36-3767 ☎0823-36-3757

黒瀬商工会
TEL.0823-82-3075
FAX.0823-82-8128

黒瀬お助けマップ

地域でみんなが
元気になる!

100歳体操
おもしろい帽子を使い、役々
できる体操です。
誰でも簡単にでき、体力に合
わない方にもお勧めです。

地域サロン
「地域サロン」は、住民同士が
定期的に集い、交流すること
により、地域のつながりを強
める場です。

お問い合わせください
社会福祉協議会黒瀬支所
TEL.0823-82-2026
FAX.0823-81-0340

黒瀬まちづくりセンター
TEL.0823-82-0203
FAX.0823-83-2403

日常生活の「ちょっと困った」手助け

「黒瀬おでかけマップ」完成 黒瀬商工会青年部



▲完成した「黒瀬おでかけマップ」を囲んで談笑する制作メンバー

東広島市黒瀬町内の地域サロンや100歳体操の拠点がひと目で確認できる、高齢者向けの「黒瀬おでかけマップ」(A3版)がこのほど完成し、配布が始まった。高齢者の外出を促すツールとして期待されている。

マップは黒瀬商工会青年部が、商工会活性化事業の一環として、在宅医療推進医や民生委員らでつくる黒瀬オレンジ会、市社協黒瀬支部などと協力して、約10カ月がかりで作成した。

表面には、高齢者が集える拠点46カ所を黒瀬町内の地区ごとの地図にまとめた他、気軽に認知症の相談ができる病院や認知症カフェの場所も掲載。裏面は、家のリフォームから外出支援、相続・遺言の相談まで、日常生活の「ちょっと困った」を手助けする黒瀬町内の30企業・店舗の電話番号を項目別に載せている。市社協などが平成29年度に行った、黒瀬町内の60歳以上の住民を対象にしたアンケートを基に、高齢者のニーズに合った情報を盛り込んだ。

マップは2000部を作成。黒瀬町内の地域サロンや社協、包括センターなどで配布する他、黒瀬商工会が運営する黒瀬町のホームページ「しっとるん？黒瀬(くろせナビ)」でも見ることができる。

注目!

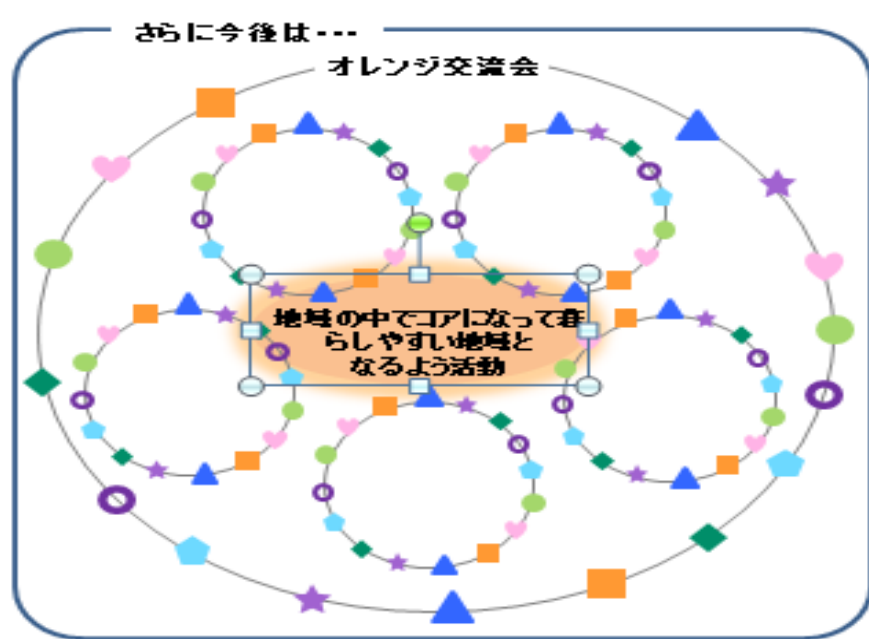
新聞に
掲載されました♪



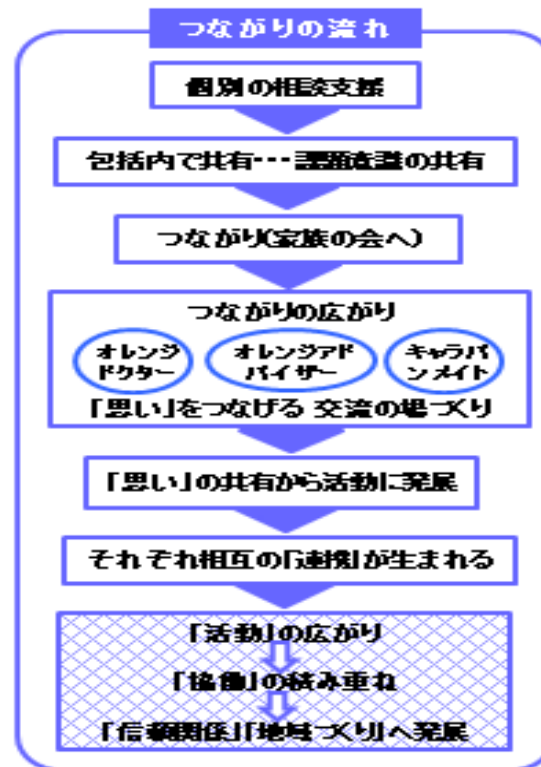
現在の課題と今後の取組みの方向性

- * 認知症の人や家族を支える地域の皆さんの声に耳を傾けること
- * 想いを共有すること
- * できることを一緒に探し、形にしていくこと...

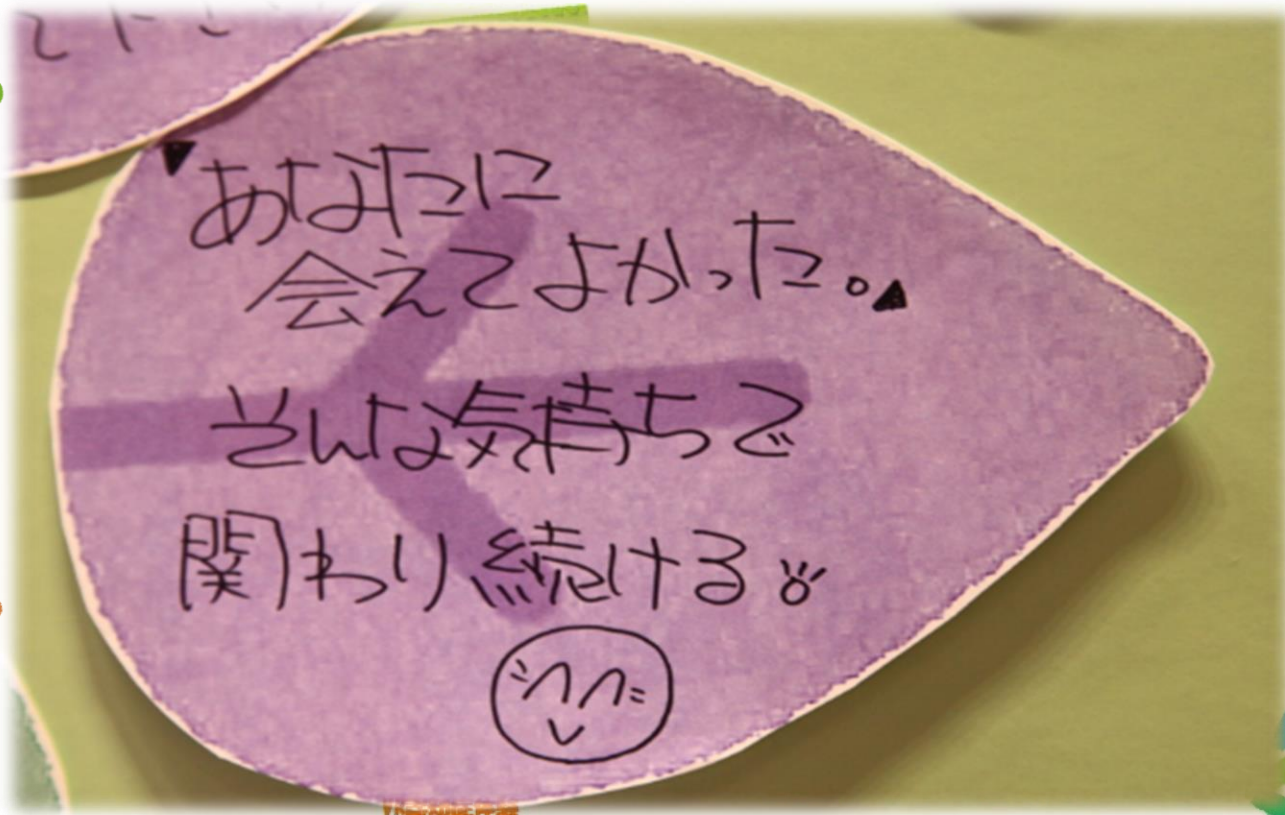
地域支援推進員は地域と共にあること。



⇒ 市民(さまざまな関係者)と行政が一体となった地域づくり



有志のみんなが つながって 「認知症支援の輪」が広がっています



ご清聴ありがとうございました。

